

7) 7

万葉集講話(二十二) 沢瀉久孝 万葉(二六、

33・1) 5

万葉集講話(二十二) 沢瀉久孝 万葉(三三、

34・4) 5

三 解釈・鑑賞

麻里布浦行之時歌(万葉集選釈) 久松潜一

解釈と鑑賞(二・一、21・1) 2

見わたしの近きわたりを 佐伯梅友 文学

(二四・二、21・2) 8

「吾妹」考(上) 武田祐吉 短歌研究(三・三、

21・3) 4

「吾妹」考(下) 武田祐吉 短歌研究(三・三、

21・4) 4

万葉集釈評(一) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・五、21・5) 5

万葉集釈評(二) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・六、21・6) 4

藤浪乃直一目耳考 尾崎暢映 短歌研究(三・

六、21・6) 5

万葉集釈評(三) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・七、21・7) 4

己津物考 石垣謙二 文学(四・七、八合併号、

21・7、8) 5

万葉集釈評(四) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・八、21・8) 6

万葉集釈評(五) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・九、21・9) 7

万葉集釈評(六) 久松潜一他八氏 解釈と鑑

賞(二・二、21・11) 5

三山歌私見 沢瀉久孝 国語・国文(六・一、

22・1) 21

妹に触れば吾にも触れなむ 沢瀉久孝 国語

・国文(六・四、22・7) 8

雲のみわやま 土岐善麿 短歌研究(五・三、23・

3) 5

泣く児守る山 五味保義 解釈と鑑賞(三・

四、23・4) 4

「風をだに恋ふるはともし」 沢瀉久孝 短歌

研究(五・四、23・4) 6

歌謡問題歌詞考 志田延義 国語と国文学

(三・三、23・12) 3

万葉の解釈 三宅 清 国語と国文学(六・

二、24・2) 6

「沖へなざかり」 三宅 清 解釈と鑑賞(四・

七、24・7) 3

万葉集に於ける情調美の胚胎 本林勝夫 文

芸研究(一、24・7) 9

万葉難語私見 丹野 正 日本文学研究(五、

24・10) 5

「みどりご」歌 菊沢季生 文芸研究(二、24・

10) 4

千鳥鳴なりつまつちかねて 沢瀉久孝 国語・

国文(九・一、25・9) 3

「あすは来むとし云いてしか」 沢瀉久孝

説林(二・九、25・9) 4

ヒト・ヲノコ・マスヲヲー万葉集私注覽書一

土屋文明 文学(八・九、25・9) 5

秋山われはー心情表現の構造を中心にー

犬養 孝 語文(一、25・11) 10

「西の市にたゞひとり出て」の歌に対する私見

馬田義雄 学芸研究ー人文科学ー(和歌山

大学学芸学部)(一、25・12) 16

万葉集「本名言」考 吉永 登 国語・国文

(二〇・一、26・1) 6

万葉集在註「鶴鷗」私案 木船正雄 国語・

国文(三・一、26・1) 5

疑問文か平叙文か 佐伯梅友 日本文学教室

(八、26・3) 7

万葉集四二五番の左註について 井上富藏

文芸と思想(福岡女子大学)(三、26・7) 6

「やすみし」考 源 豊宗 芸林(三・四、26・

8) 8

往左来左君社見良目 尾埜よしゑ 万葉(一、

26・10) 6

彼方の赤土少屋にこさめふり 木下正俊

万葉(一、26・10) 8

序詞句格補説―渡津海乃豊旗爾伊理比沙之

―森 重敏 万葉(一、26・10) 8

独りのみきぬる衣の 佐竹昭広 万葉(一、26・10) 6

「玉手次歌火」考 松田好夫 日本文学研究 (一七、26・11) 2

「片思ひを馬にふつまに」の歌私解 阪倉篤義 万葉(三、27・1) 8

「草等良牟」考 加藤順三 万葉(三、27・1) 3

「芳野よく見よ良き人よく見」 沢瀉久孝 万葉(三、27・1) 7

「真木葉乃之奈布勢能山考 尾崎暢歿 国学院雑誌(五三・一、27・4) 7

「きよし」と「さやけし」(万葉三七番「月夜清鳥」攷) 渋谷虎雄 語文(五、27・4) 6

枕詞「うつ木綿」に就いて 田辺正男 国学院雑誌(五三・一、27・6) 12

古代語「とほしろし」と「のどよい」について 村山七郎 国語・国文(三・七、27・8) 5

億良の「めぐし、うつくし」考 今井福治郎 上代文学(一、27・9) 6

大和にしてはわが恋ふる 沢瀉久孝 国語・国文(三・九、27・10) 6

かけておもふ 阪倉篤義 万葉(五、27・10) 2

青雲攷 吉井 巖 万葉(五、27・10) 9

「誰爾絶多倍」 木下正俊 万葉(五、27・10)

2 回想の歌二三首 神田秀夫 万葉(六、28・1) 3

音にしも哭かむ隠妻かも 蜂矢宣朗 天理大文学報(二〇、28・3) 14

万葉集「草香山歌」攷 藤森朋夫 東京女子大学論集(三三、28・4) 10

東歌研究のノートから―三五六一・三三二九 三五二六・三五五六の歌― 後藤興善 万葉(七、28・4) 7

「梅の花咲き散る園」私考 和田徳一 万葉(七、28・4) 7

万代に過ぎむと念へや 内田暁郎 万葉(七、28・4) 2

「故奈乃思良爾爾補説私案 富田大同 国学院雑誌(五三・一、28・7) 8

「何時辺乃方考 野中春水 万葉(八、28・7) 7

「わわらば」と「わくらば」―誤写と意味の移入による古語誤解の一例― 井手 至 万葉(八、28・7) 8

上代歌語語釈小考 曾田文雄 万葉(九、28・10) 2

卷十四の「中麻奈」 都竹通年雄 万葉(九、28・10) 4

七夕物語とその詩歌 橋川時雄 万葉集大成月報(六、28・10) 4

「雪のくだけしそこに散りけむ」 沢瀉久孝 万葉(二〇、29・1) 2

「あともふ」攷 武智雅一 愛媛国文研究(三、29・3) 6

「多夫手二毛」私按 真鍋次郎 愛媛国文研究(三、29・3) 8

「あらたしき」と「あたらしき」 佐藤 茂 文芸研究(二六、29・3) 7

旅行きも之思良奴君 関守次男 万葉(二、29・4) 2

湯原王打酒歌評釈の試み(上) 橋川時雄 万葉(二、29・4) 6

吾は恋ふるか相ふ縁なしに 伊藤 博 万葉(二、29・4) 3

「あをによし」考 藤野勝弥 芸林(五三、29・6) 10

万葉集における三つの表現方法 瀬古 確 不知火(七、29・6) 6

「もとつひと」考 板橋倫行 上代文学(四、29・7) 3

「心もとけて」 大野雅照 万葉(三、29・7) 9

湯原王打酒歌評釈の試み(下) 橋川時雄 万葉(三、29・7) 8

七夕と月 小島憲之 万葉集大成月報(二、29・7) 2

コロンブスの卵―「島隠る」か「山隠る」か―

- 大浜厳比古 万葉(三、29・10) 11
「青雲の星離れゆき月を離れて」 沢瀉久孝
万葉(三、29・10) 9
竹岡氏の球手折考をよみて 真鍋次郎 万葉
(三、29・10) 4
奈加弭考 吉永 登 万葉(三、29・10) 3
越の俗語あゆの風考 三辺清一郎 万葉(四、
30・1) 8
中皇命の献上賀歌 谷 馨 万葉集大成月報
(一六、30・3) 4
いもとありしときはあれども 大浜厳比古
万葉(五、30・4) 3
早河の瀬に居る鳥 山田弘通 万葉(五、30・
4) 2
斎津磐群に草むさず 今井福治郎 上代文学
(五、30・5) 5
万葉集「はだれ」考 藤森朋夫 万葉研究
(一六、30・5) 6
いまのをつつ考 武田祐吉 万葉(七、30・10)
4
「宇多我多毛」割記 阪倉篤義 万葉(一七、30・
10) 5
うつらうつら考 大坪併治 万葉(一七、30・
10) 4
碓氷の坂を越えしだに 春日和男 万葉(一七、
30・10) 5
黒人の「旅にして」の歌の訓釈 森本治吉
- 万葉(一七、30・10) 5
叩々ものをおもへば 小島憲之 万葉(一七、
30・10) 3
「しいがたりといふ」 沢瀉久孝 万葉(一七、
30・10) 2
「むささびは木ぬれ求むと」 吉永 登 万葉
(一七、30・10) 3
「くとき」語原説―祝言及祝言職・その一―
池田弥三郎 国学院雜誌(五六、四、30・11) 7
「舟なる君は宿りぬ島に」 沢瀉久孝 国語・
国文(四二、二、30・11) 6
万葉第八四歌について(二) 福沢武一 歌と
評論(六、三、30・12) 3
万葉集「丹生のまそほ」と「宇陀のまはに」
新考―万葉集辰砂考― 三濑末松 国語と
国文学(三三、三、30・12) 7
「阿方御念食す」追考 尾崎暢映 万葉集研究
(万葉西会)(一、30・12) 8
「嶺に立つ雲を見つつ偲ばせ」の解釈について
鈴木正彦 万葉集研究(一、30・12) 7
服曾比玢 佐藤喜代治 万葉(一八、31・1) 6
万葉引佐細江の歌私解 船越安夫 文芸心
(三三、31・2) 2
万葉の「ヤド」と「ヤドリ」 境田四郎
女子大文学国文学篇(大阪女子大学)(七、
31・3) 14
語りつき言いつぎゆかむ 大浜厳比古 万葉
(一九、31・4) 3
「しのおめ・いなのおめ」致一原始的住居と「め」
―井手 至 万葉(二〇、31・7) 11
わが恋ひやまむ 白子福右衛門 解釈(二二、八、
31・8) 2
「旅ゆきに行く」と知らずて 藤原芳男 解釈
(二九、31・9) 3
「渡津見の豊旗雲に」の歌の解釈を通して
吉永 登 解釈と鑑賞(三〇、〇、31・10) 4
いくひさゝ考 大坪併治 万葉(三三、31・10)
7
「紀能夜麻考―万葉集八二三番の解釈をめぐ
って― 前田 淑 香椎瀉(福岡女子大学)
(一、31・11) 4
万葉集「香椎瀉」の歌―類歌の問題をめぐつ
て― 倉野憲司 香椎瀉(福岡女子大学)(一、
31・11) 4
「浦の島子」「鳴かましや」 穴山孝道 文学
論輯(四、31・12) 6
万葉集第七七三歌について 福沢武一 歌と
評論(六、一、32・1) 4
明日香川川淀さらさらず立つ霧の 吉井 巖
万葉(三三、32・1) 2
万葉集「行驛関兵考」卷十三 三二四二の本
文復原―松田好夫 万葉(三三、32・1) 6
万葉集の一枕詞について 安間 清 信濃
(九二、32・2) 12

万葉集の「にほふ」について 武智雅一

愛媛国文研究(六、32・3) 7

万葉集解釈の基盤―二つの歌の解釈を通じて

― 吉永 登 甲南女子短期大学論叢(三、32・3) 14

「炎」(かぎろひ)考 長須正文 解釈(三三、32・4) 3

「葦垣」考 賀古 明 和歌文学研究(三、32・4) 10

「梅花歌序」ノート 佐藤威夫 解釈(三三、32・5) 2

国文学・上代―峯もとををに― 犬養 孝 解釈と鑑賞(三三、32・5) 4

「可波治・可伯豆」考 鈴木正彦 万葉集研究(三、32・6) 7

枕詞「あぢさはふ」の背後 井手 至 国語・国文(二六七、32・7) 11

三輪山をしかも隠すか―井戸王すなわち和ふる歌― 松田好夫 国語と国文学(三三、32・7) 9

うまし 橋本四郎 万葉(二四、32・7) 2

婦の命のたたなく柔膚 大野 保 万葉(二四、32・7) 2

積雪彫成重巖之起 三辺清一郎 万葉(二四、32・7) 3

「目をやすみ」 井手 至 万葉(二四、32・7) 1

万葉集「家聞かな」の解釈 筏 勲 解釈(三九、32・9) 3

おきそ山・美濃の山―万葉集の一首は尾張の古謡か― 松田好夫 文学・語学(五、32・9) 9

「万葉集開卷第一の歌」私見 北条忠雄 文学・語学(五、32・9) 10

万葉集卷十四の間答歌について 江野沢淑子 歌と評論(元二〇、32・10) 2

「万葉開卷第一の歌」について 池田 勉 成城文芸(三、32・11) 15

「朝顔の」および「漕ぐ舟の」―万葉集東歌三五〇二・三五五七― 上西 繁 国文学論叢(六、32・12) 14

ねもころに君が聞こして―大伴坂上郎女私放― 藤原芳男 万葉(三、33・1) 8

万葉集「浦の浜木綿百重なす」考 室田浩然 解釈(四三、33・2) 3

万葉集「等夜の野」の歌 田中佩刀 解釈(四三、33・2) 2

万葉第一〇歌について(二) 福沢武一 歌と評論(元二、33・3) 3

万葉二題―「踏静子之手玉鳴裳」の訓釈、二「日の暮れに」は枕詞か― 武智雅一 愛媛国文研究国文学研究(七、33・3) 8

「万葉集三二六五」考 佐野正巳 中央大学国文(一、33・3) 4

葦垣の思ひ乱れて―枕詞「葦垣の」考ノ内― 賀古 明 万葉(二七、33・4) 9

近江荒都の歌 清水克彦 万葉(二七、33・4) 8

我れし行きなば靡け篠原 西宮一民 万葉(二七、33・4) 6

あをうまのせちゑ 会田文雄 解釈(四三、33・5) 4

鳴く鳥の声も聞えず考 尾崎暢映 万葉集研究(三、33・5) 10

寝な(児ゆえに) 宮田大同 解釈(四七、33・7) 4

むらさきの匂へる妹 佐伯梅友 文学・語学(九、33・9) 8

「筆人乃湍門」考 花田昌治 万葉(元、33・10) 6

「浜松之上於雲棚引」 蜂矢宣朗 万葉(元、33・10) 4

秋田刈る妹 尾崎暢映 国学院雑誌(元二〇、二合併号、33・10、11) 6

鷓子鳥うらなけ居れば 鈴木正彦 国学院雑誌(元二〇、二合併号、33・10、11) 7

鶉鳴くふりにし里ゆ 賀古 明 国学院雑誌(元二〇、二合併号、33・10、11) 7

万葉集三一九番長歌の段落について 小林国雄 解釈(四二、三合併号、33・12) 2

万葉集解釈の一方法 宮田和一郎 武庫川女

子大学紀要人文科学篇(六、33年度) 16

万葉集・源氏物語・徒然草に於ける語彙の研究 楠瀬淳子 学習院大学国語国文学会誌 (三、34・1) 7

「茜さす紫野行き」の歌について 松村明敏 国文学(四・1、34・1) 2

三一九番長歌の段落について 小林国雄 国文学(四・1、34・1) 1

「乱れいづ見ゆ」か「乱れていづ見ゆ」か 鶴久 万葉(三、34・1) 4

万葉集三五二九番の歌補説 田中佩刀 解釈(五・1、34・2) 2

万葉初期の歌一首 鎌田太郎 街路樹(五・1、34・2) 4

万葉集巻五梅花歌序の「詩紀落梅之編」について 倉野憲司 国語と国文学(三、34・2) 6

万葉集の「安波之麻」について 山中鉄三 国文学(四・1、34・2) 3

「かをる」と「にほふ」 柴生田 稔 国語と国文学(三、34・3) 12

朝月日向黄楊柳 橋本四郎 万葉(三、34・4) 3

万葉集第十五番の歌「渡津海乃……清明已曾」のよみについての私見 亀井 孝 万葉(三、34・4) 6

「八船多気」をめぐって 西宮一民 万葉(三、34・4) 6

34・4) 6

枕詞と地名と 桜井 満 万葉集研究(四、34・6) 9

往布勢水海道中馬上口号二首 藤原芳男 万葉(三、34・10) 5

万葉集の第一首 津田左右吉 美夫君志(二、34・12) 2

「焼きほろぼさむ天の火もがも」は四句切か 横山 英 静岡女子短期大学紀要(六、35・2) 4

「阿奈爾與斯致 沢瀉久孝 島田教授記念 国文学論集(35・3) 5

万葉集「木綿花」考 宝田浩然 文学・語学(五、35・3) 10

「體」考―万葉集用語の研究― 井上富蔵 国文学攷(三、35・4) 9

石見の国より上り来る時の歌(その二) 清水克彦 女子大国文(一、35・5) 11

雲の上に鳴くなる雁の―右大臣橋家宴歌― 藤原芳男 万葉(三、35・7) 7

垣ほなす人 賀古 明 万葉集研究(五、35・7) 11

瀬々の流れ 今井福治郎 万葉集研究(五、35・7) 10

手草考 柳井巳酉朔 万葉集研究(五、35・7) 15

三諸の神奈備山ゆ 尾崎暢映 万葉集研究

(五、35・7) 7

信濃のほととぎす―万葉三五二番の歌の解釈― 小川達雄 日本文学(九、35・9) 9

万葉集の「聞く」「寒し」など 能勢佐十郎 国文学攷(四、35・11) 5

はちす―戯笑歌の一解釈― 伊藤 博 万葉(三、36・1) 8

夜隠 中西 進 万葉(六、36・1) 10

相聞歌二首私見 武智雅一 武蔵野文学(八、36・2) 6

今敷者見目屋跡念之 橋本四郎 美夫君志(三、36・3) 8

「玉たすき歌火の山」解釈 関守次男 美夫君志(三、36・3) 11

万葉「詩紀落梅之篇」続貂 古沢未知男 国語と国文学(六、36・5) 14

をとめらが袖ふる山のみう垣 賀古 明 上代文学(二、36・5) 14

ツノサハフ・シナテル・シナタツ―枕詞の解釈をめぐって― 井手 至 万葉(三、36・5) 6

「布靡越者」について 西宮一民 万葉(三、36・5) 8

「見る」ことの意味 土橋 寛 万葉(三、36・5) 10

炊煙・煙籠考 酒井貞三 文学・語学(二、36・6) 11

万葉集東歌の足柄山の一首について 菊沢季生 文艺研究(元、36・6) 12

万葉集三三五(常陸国歌)考 上西 繁 文艺研究(元、36・6) 8

上代の東国俚言―東歌・防人歌の解釈方法に關する問題―浅見 徹 万葉(四、36・7) 21

夏の野にわが見し草は 藤原芳男 万葉(四、36・7) 5

枕詞と呪農―「花散らふ」と「み雪ふる」の発想― 桜井 満 万葉(四、36・7) 9

万葉とどこどころ 脇屋真一 国学院雑誌(三二、七、八合併号、36・8) 4

秋津島考 桜井 満 国学院雑誌(三二、七、八合併号、36・8) 4

36・10) 11
みをつくしの巻の歌 長谷川信好 ハハキギ(二〇、36・10) 2

いづちむきてかあがわかるらむ 真鍋次郎 万葉(四、36・10) 2

「しみら」と「すがら」―ヒネモス・ヨモスガラの意味― 阪倉篤義 万葉(四、36・10) 14

一夜のみ宿たりしからに考 尾崎暢殃 万葉集研究(六、36・10) 8

仙柘技歌 中西 進 国語・国文(三〇、三、36・12) 20

万葉集における「黄葉」―二一八八・二一八九の解釈をめぐって― 本田義寿 論究日本文学(一六、36・12) 8

万葉の歌語り講座 伊藤 博 言語と文艺(四二、一、37・1) 11

仙媛贈答歌の性格 清水克彦 万葉(四三、4) 11

八雲立つ出雲 土橋 寛 万葉(四三、37・4) 15

鎌倉の見越しの 四賀光子 国文学(七六、5) 1

信濃なる須賀の 五味保義 国文学(七六、5) 1

筑紫なるにほふ子 鹿兒島寿藏 国文学(七六、37・5) 1

津の国の海の 五島美代子 国文学(七六、5) 1

庭に立つ麻手 長沢美津 国文学(七六、5) 1

人妻と何か其を 宮 修二 国文学(七六、5) 1

道の辺の荆の 柴生田 稔 国文学(七六、5) 1

鷲の住む筑波 松村英一 国文学(六六、37・5) 2

万葉二二六番歌考 市村 宏 国文学放(六、37・5) 9

「なに」と「いかに」と 木下正俊 万葉(四三、37・7) 17

「万葉集開卷第一の歌をめぐって(加美津考(三) 益田勝実 解釈と鑑賞(二七、一〇、37・9) 2

万葉筑波嶺耀歌試考 市村 宏 文学論藻(三三、37・10) 16

見る歌の発想形式について―「見ゆ」を中心にして― 吉井 巖 万葉(四三、37・10) 14

「秋山われは考」岡部政裕 静岡大学人文論集(三三、37・11) 18

住吉の浜の小松 市村 宏 上代文学研究会会報(三三、37・11) 4

万葉四二三五番歌考―安多之―の解釈の一面― 清水一茂 上代文学研究会会報(三三、37・11) 5

万葉集卷五恋男子名古日語三首 佐藤信彦 芸文研究(四、一五合併号、38・1) 14

紐二題―「ただならずとも」と「つけし紐とく」― 吉井 巖 万葉(四三、38・1) 7

万葉集「三山歌」の反歌 久曾神昇 金城国文(六、38・3) 6

妻争伝説歌から「浮舟」へ 本多弘子 万葉(一、38・3) 10

万葉集「八多羅」考―田子の浦の意味― 佐野正巳 中央大学国文(六、38・3) 8

万葉一四九七歌について(一) 福沢武一 歌と評論(四四、38・4) 3

ぬな川の底なる玉―「万葉翡翠」をめぐって― 金井清一 古典と現代(八、38・4) 12

万葉の東歌(古典鑑賞) 我妻 泰 短歌(二〇、四、38・4) 3

東歌の「可牟思太」「可牟能禰」について

後藤利雄 万葉(四七、38・4) 9

鳥翔成と飛鳥 久松潜一 明日香(六五、38・5) 2

万葉一四九七歌について(二) 福沢武一

歌と評論(四七、五、38・5) 2

「走り出の・出で立ちの」考 酒井貞三 解釈(九二、38・5) 9

ねむの花―万葉集の戯歌をめぐる―

小島憲之 人文研究(四四、四、38・5) 5

万葉集卷十四の東歌と歌垣の問題―筑波嶺・野ごもり・磯遊び・足柄の歌― 渡辺昭五

伝承文学研究(四、38・5) 23

「碓氷の坂を越えしだに」補説―父の思い出に

よせて―春日和男 語文研究(六、38・6) 8

「東細布」と「横雲」 吉井 巖 美夫君志(六、38・6) 7

この川に朝菜洗ふ兒―「余知」の考―

加藤静雄 美夫君志(六、38・6) 6

紫の恋―その軍事的背景― 松田好夫 美夫君志(六、38・6) 6

小さな問題(二二三) 佐伯梅友 古文研究(三、38・7) 7

何處より来りしものぞ 柳川 清 万葉(四六、38・7) 9

志賀の白水郎の歌 清水一茂 上代文学研究

会会報(三、38・9) 5

万葉集の一首 橘りつ 上代文学研究会会報(三、38・9) 2

万葉集における「おもふ」について 土田将雄 芸文研究(六、38・10) 16

履はけ我が背 後藤利雄 万葉(四、38・10) 4

み熊野の浦の浜木綿 尾崎暢映 和洋国文研究(一、38・10) 11

足柄の箱根の山に、他三首 長沢美津 国文学(九四、39・3) 2

稻春けば輝る吾が手を、他三首 太田青丘 国文学(九四、39・3) 2

志可の海人は藻刈り塩焼き、他三首 長谷川銀作 国文学(九四、39・3) 1

醬酢に蒜搗き合せて、他三首 前川佐美雄 国文学(九四、39・3) 1

わが妹子がしめびにせよと、他三首 鹿兒島寿藏 国文学(九四、39・3) 2

「余比多夜麻祢余波都可奈那」の歌の解釈―とくに東歌・防人歌のみに見える未然形承接の「なな」にふれて― 水島義治 文学・語学(三、39・3) 12

宮女の恋 中西 進 上代文学(六、39・6) 9

あゆちの水 高木市之助 美夫君志(七、39・6) 6

あらたまの『きへ』の原義―古代思惟の探求―

賀古 明 美夫君志(七、39・6) 12

「伎波都久乃乎加」 渡部和雄 美夫君志(七、39・6) 7

「多麻波夜須武庫」の解義 入江 潛 国学院雑誌(五七、39・7) 15

万葉集のズハの解釈 宮田和一郎 国文学(九二、39・9) 3

東歌解釈異見三―三四九六、三四〇六、三五四九の歌― 後藤利雄 文芸研究(四、39・9) 6

「氣長く妹が庵せりけむ」の背後にあるもの 山田弘通 国語と国文学(四三、三、39・12) 8

万葉集短歌研究(一) 諸家 アララギ(四七、一、29・1) 7

万葉集短歌研究(二) ―卷第一(八・一〇・一一)― 諸家 アララギ(四七、三、29・2) 7

万葉集短歌研究(三) ―卷第一(二二・二四・一五)― 諸家 アララギ(四七、三、29・3) 5

万葉集短歌研究(四) ―卷第一(二八・一九)― 諸家 アララギ(四七、四、29・4) 3

万葉集短歌研究(五) ―卷第一(二〇・二二)― 諸家 アララギ(四七、五、29・5) 5

万葉集短歌研究(六) ―卷第一(二二・二三・二四)― 諸家 アララギ(四七、六、29・6) 4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

4

- 万葉集短歌研究(七) — 卷第一(二七・二八)
 | 諸家 アララギ(四七・七、29・7) 3
 万葉集短歌研究(八) — 卷第一(三〇・三一)
 | 諸家 アララギ(四七・八、29・8) 4
 万葉集短歌研究(九) — 卷第一(三二・三三・三四)
 | 諸家 アララギ(四九、29・9) 5
 万葉集短歌研究(十) — 卷第一(三五・三七・三九)
 | 諸家 アララギ(四七・二〇、29・10) 4
 万葉集短歌研究(十一) — 卷第一(四〇・四一・四二)
 | 諸家 アララギ(四七・二、39、11) 5
 万葉集短歌研究(十二) — 卷第一(四三・四四)
 | 諸家 アララギ(四七・三、29・12) 4
 万葉集短歌研究(十三) — 卷第一(四六・四七・四八・四九)
 | 諸家 アララギ(四七・一、30・1) 7
 万葉集短歌研究(十四) — 卷第一(五一・五二)
 | 諸家 アララギ(四七・二、30・2) 7
 万葉集短歌研究(十五) — 卷第一(五五・五七・五八)
 | 諸家 アララギ(四七・三、30、3) 6
 万葉集短歌研究(十六) — 卷第一(五九・六〇)
 | 諸家 アララギ(四七・五、30・5) 3
 万葉集短歌研究(十七) — 卷第一(六一・六二)
 | 諸家 アララギ(四七・六、30・6) 3
 万葉集短歌研究(十八) — 卷第一(六三・六四)
 | 諸家 アララギ(四七・七、30・7) 4
 万葉集短歌研究(十九) — 卷第一(六五・六六)
 | 諸家 アララギ(四七・八、30・8) 4
 万葉集短歌研究(二十) — 卷第一(六七・六八)
 | 諸家 アララギ(四七・九、30・9) 3
 万葉集短歌研究(二十一) — 卷第一(六九・七〇)
 | 諸家 アララギ(四七・一〇、30・10) 4
 万葉集短歌研究(二十二) — 卷第一(七一・七二)
 | 諸家 アララギ(四七・三、30・12) 4
 万葉集短歌研究(二十三) — 卷第一(七三・七四・七五)
 | 諸家 アララギ(四七・二、31・1) 5
 万葉集短歌研究(二十四) — 卷第一(七八・八〇)
 | 諸家 アララギ(四七・三、31・2) 4
 万葉集短歌研究(二十五) — 卷第一(七六・七七)
 | 諸家 アララギ(四七・三、31・3) 6
 万葉集短歌研究(二十六) — 卷第一(八一・八二)
 | 諸家 アララギ(四七・五、31・5) 4
 万葉集短歌研究(二十七) — 卷第一(八三・八四)
 | 諸家 アララギ(四七・六、31・6) 3
 万葉集短歌研究(二十八) — 卷一について
 | 諸家 アララギ(四七・七、31・7) 9
 万葉集短歌研究(二十九) — 卷第二(八五・八六・九〇)
 | 諸家 アララギ(四七・八、31・8) 4
 万葉集短歌研究(三十) — 卷第二(八七・八八・八九)
 | 諸家 アララギ(四九・九、31、9) 4
 万葉集短歌研究(三十一) — 卷第二(九一・九二)
 | 諸家 アララギ(四九・一〇、31・10) 4
 万葉集短歌研究(三十二) — 卷第二(九三・九四・九五)
 | 諸家 アララギ(四九・二、31・11) 5
 万葉集短歌研究(三十三) — 卷第二(九六・九七・九八・九九・一〇〇)
 | 諸家 アララギ(四九・三、31・12) 5
 万葉集短歌研究(三十四) — 卷第二(一〇一・一〇二)
 | 諸家 アララギ(四九・六、32、1) 3
 万葉集短歌研究(三十五) — 卷第二(一〇三・一〇四)
 | 諸家 アララギ(四九・三、32、2) 5
 万葉集短歌研究(三十六) — 卷第二(一〇五・一〇六)
 | 諸家 アララギ(四九・三、32、3) 4
 万葉集短歌研究(三十七) — 卷第二(一〇七・一〇八)
 | 諸家 アララギ(四九・四、32、4) 3
 万葉集短歌研究(三十八) — 卷第二(一〇九・一一〇)
 | 諸家 アララギ(四九・五、32、1) 3

- 5) 4 万葉集短歌研究(三十九) — 卷第二(一一一・一一二・一一三) — 諸家 アアラギ(五・六・32・6) 5
 万葉集短歌研究(四十) — 卷第二(一一四・一一八) — 諸家 アアラギ(五・七・32・7)
 8 万葉集短歌研究(四十二) — 卷第二(一一九・一二二) — 諸家 アアラギ(五・八・32・8) 6
 万葉集短歌研究(四十二) — 卷第二(一二三・一二五) — 諸家 アアラギ(五・九・32・9) 5
 万葉集短歌研究(四十三) — 卷第二(一二六・一二八) — 諸家 アアラギ(五・一〇・32・一〇) 4
 万葉集短歌研究(四十四) — 卷第二(一二九・一三〇) — 諸家 アアラギ(五・一一・32・一一) 4
 万葉集短歌研究(四十五) — 卷第二(一三二・一三四) — 諸家 アアラギ(五・一三・32・一三四) 5
 万葉集短歌研究(四十六) — 卷第二(一三六・一三七・一四〇) — 諸家 アアラギ(五・一、33・一) 7
 万葉集短歌研究(四十七) — 卷第二(一四一・一四二) — 諸家 アアラギ(五・一三、33・一四二) — 諸家
 2) 4 万葉集短歌研究(四十八) — 卷第二(一四三・一四六) — 諸家 アアラギ(五・三三、33・3) 7
 万葉集短歌研究(四十九) — 卷第二(一四七・一四九) — 諸家 アアラギ(五・四、33・4) 6
 万葉集短歌研究(五十) — 卷第二(一五一・一五二・一五四) — 諸家 アアラギ(五・六、33・6) 5
 万葉集短歌研究(五十一) — 卷第二(一五六・一五八) — 諸家 アアラギ(五・七、33・7) 5
 万葉集短歌研究(五十二) — 卷第二(一六〇・一六一) — 諸家 アアラギ(五・八、33・8) 5
 万葉集短歌研究(五十三) — 卷第二(一六三・一六四) — 諸家 アアラギ(五・九、33・9) 4
 万葉集短歌研究(五十四) — 卷第二(一六五・一六六) — 諸家 アアラギ(五・一、33・一六六) — 諸家
 11) 4 万葉集短歌研究(五十五) — 卷第二(一六八・一六九・一七〇) — 諸家 アアラギ(五・一、34・一) 4
 万葉集短歌研究(五十六) — 卷第二(一七一・一七六) — 諸家 アアラギ(五・三、34・一七六) — 諸家
 2) 5 万葉集短歌研究(五十七) — 卷第二(一七七・一八二) — 諸家 アアラギ(五・三三、33・3) 5
 万葉集短歌研究(五十八) — 卷第二(一八三・一八八) — 諸家 アアラギ(五・四、34・4) 6
 万葉集短歌研究(五十九) — 卷第二(一八九・一九三) — 諸家 アアラギ(五・六、34・6) 4
 万葉集短歌研究(六十) — 卷第二(一九五・一九七・一九八) — 諸家 アアラギ(五・七、34・7) 4
 万葉集短歌研究(六十二) — 卷第二(二〇〇・二〇二) — 諸家 アアラギ(五・八、34・8) 4
 万葉集短歌研究(六十三) — 卷第二(二〇三・二〇五・二〇六) — 諸家 アアラギ(五・九、34・9) 4
 万葉集短歌研究(六十四) — 卷第二(二〇八・二〇九) — 諸家 アアラギ(五・一〇、34・一〇) 5
 万葉集短歌研究(六十五) — 卷第二(二一一・二一二・二一六) — 諸家 アアラギ(五・二、34・一) 5
 万葉集短歌研究(六十六) — 卷第二(二一八・二一九・二二二) — 諸家 アアラギ(五・二、34・一) 5

- 1) 7
 万葉集短歌研究(六十七) — 卷第二(二二八・二二九・二三一・二三三・二三四) — 諸家 アアラギ(五・三、35・3) 4
 万葉集短歌研究(六十八) — 卷第三(二二三・二三三・二三八) — 諸家 アアラギ(五・四、35・4) 4
 万葉集短歌研究(六十九) — 卷第三(二四〇・二四四) — 諸家 アアラギ(五・六、35・6) 6
 万葉集短歌研究(七十) — 卷第三(二四五・二四八) — 諸家 アアラギ(五・七、35・7) 6
 万葉集短歌研究(七十一) — 卷第三(二四九・二五二) — 諸家 アアラギ(五・九、35・9) 6
 万葉集短歌研究(七十二) — 卷第三(二五三・二五六) — 諸家 アアラギ(五・一〇、35・10) 7
 万葉集短歌研究(七十三) — 卷第三(二五八・二六四) — 諸家 アアラギ(五・二、35・11) 8
 万葉集短歌研究(七十四) — 卷第三(二六五・二六九) — 諸家 アアラギ(五・一、36・1) 8
 万葉集短歌研究(七十五) — 卷第三(二七〇・二七三) — 諸家 アアラギ(五・二、36・2) 7
 万葉集短歌研究(七十六) — 卷第三(二七四・二七七) — 諸家 アアラギ(五・三、36・3) 11
 万葉集短歌研究(七十七) — 卷第三(二七八・二八一) — 諸家 アアラギ(五・四、36・4) 5
 万葉集短歌研究(七十八) — 卷第三(二八二・二八六) — 諸家 アアラギ(五・五、36・5) 8
 万葉集短歌研究(七十九) — 卷第三(二八七・二九一) — 諸家 アアラギ(五・六、36・6) 7
 万葉集短歌研究(八十) — 卷第三(二九二・二九五) — 諸家 アアラギ(五・七、36・7) 7
 万葉集短歌研究(八十一) — 卷第三(二九六・二九九) — 諸家 アアラギ(五・八、36・8) 7
 万葉集短歌研究(八十二) — 卷第三(三〇〇・三〇四) — 諸家 アアラギ(五・九、36・9) 8
 万葉集短歌研究(八十四) — 卷第三(三〇五・三〇九) — 諸家 アアラギ(五・〇、36・10) 8
 万葉集短歌研究(八十五) — 卷第三(三一〇・三一四) — 諸家 アアラギ(五・一、36・11) 8
 万葉集短歌研究(八十六) — 卷第三(三一六・三二二) — 諸家 アアラギ(五・三、36・12) 7
 万葉集短歌研究(八十七) — 卷第三(三二二・三二七) — 諸家 アアラギ(五・一、37・1) 7
 万葉集短歌研究(八十八) — 卷第三(三二八・三三〇) — 諸家 アアラギ(五・二、37・2) 7
 万葉集短歌研究(八十九) — 卷第三(三三二・三三三) — 諸家 アアラギ(五・三、37・3) 5
 万葉集短歌研究(九十) — 卷第三(三三三・三三七) — 諸家 アアラギ(五・五、37・5) 8
 万葉集短歌研究(九十一) — 卷第三(三三八・三四一) — 諸家 アアラギ(五・六、37・6) 7
 万葉集短歌研究(九十二) — 卷第三(三四二・三四五) — 諸家 アアラギ(五・七、37・7) 6
 万葉集短歌研究(九十三) — 卷第三(三四六・三五〇) — 諸家 アアラギ(五・八、37・8) 8

- 万葉集短歌研究(九十三) — 卷第三(三五—
一三五六) — 諸家 アララギ(丑・九、37、
9) 8
- 万葉集短歌研究(九十四) — 卷第三(三五七
— 一六〇) — 諸家 アララギ(丑・一〇、37、
10) 7
- 万葉集短歌研究(九十五) — 卷第三(三六一
— 一六五) — 諸家 アララギ(丑・三、37、
12) 7
- 万葉集短歌研究(九十六) — 卷第三(三六七
— 一七〇) — 諸家 アララギ(癸・一、38、
1) 6
- 万葉集短歌研究(九十七) — 卷第三(三七—
一三七五) — 諸家 アララギ(癸・三、38、
3) 7
- 万葉集短歌研究(九十八) — 卷第三(三七六
— 一三八〇) — 諸家 アララギ(癸・五、38、
5) 8
- 万葉集短歌研究(九十九) — 卷第三(三八—
三八三・三八四) — 諸家 アララギ(癸・
六、38、6) 6
- 万葉集短歌研究(一〇〇) — 卷第三(三八五
— 一三八九) — 諸家 アララギ(癸・七、38、
7) 6
- 万葉集短歌研究(一〇一) — 卷第三(三九〇
— 一三九四) — 諸家 アララギ(癸・八、38、
8) 7
- 万葉集短歌研究(一〇二) — 卷第三(三九五
— 一三九九) — 諸家 アララギ(癸・九、38、
9) 6
- 万葉集短歌研究(一〇三) — 卷第三(四〇〇
— 一四〇六) — 諸家 アララギ(癸・一〇、38、
10) 9
- 万葉集短歌研究(一〇四) — 卷第三(四〇七
— 一四一一) — 諸家 アララギ(癸・二、38、
11) 6
- 万葉集短歌研究(一〇五) — 卷第三(四一二
— 一四一五) — 諸家 アララギ(癸・三、38、
12) 6
- 万葉集短歌研究(一〇六) — 卷第三(四一六
— 一四一九) — 諸家 アララギ(癸・六、39、
1) 8
- 万葉集短歌研究(一〇七) — 卷第三(四二二
— 一四二五) — 諸家 アララギ(癸・三、39、
3) 7
- 万葉集短歌研究(一〇八) — 卷第三(四二六
— 一四三〇) — 諸家 アララギ(癸・五、39、
5) 9
- 万葉集短歌研究(一〇九) — 卷第三(四三三
— 一四三七) — 諸家 アララギ(癸・六、39、
6) 8
- 万葉集短歌研究(一一〇) — 卷第三(四三八
— 一四四〇) — 諸家 アララギ(癸・七、39、
7) 6
- 万葉集短歌研究(一一一) — 卷第三(四四一
— 一四四五) — 諸家 アララギ(癸・八、39、
8) 7
- 万葉集短歌研究(一一二) — 卷第三(四四六
— 一四四八) — 諸家 アララギ(癸・一〇、39、
10) 6
- 万葉集短歌研究(一一三) — 卷第三(四四九
— 一四五三) — 諸家 アララギ(癸・二、39、
11) 8
- 万葉集短歌研究(一一四) — 卷第三(四五四
— 一四五九) — 諸家 アララギ(癸・三、39、
12) 8
- 万葉集抄(一) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
三、23・3) 2
- 万葉集抄(二) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
六、23・6) 2
- 万葉集抄(三) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
七、23・7) 2
- 万葉集抄(四) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
九、23・9) 2
- 万葉集抄(五) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
二、23・11) 2
- 万葉集抄(六) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一三
三、23・12) 4
- 万葉集抄(七) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一四
三、24・2) 3
- 万葉集抄(八) 久松潜 — 解釈と鑑賞 (一四

- 四、24・4) 2 万葉集抄(九) 久松潜一 解釈と鑑賞(四)
 六、24・6) 2 万葉集抄(一〇) 久松潜一 解釈と鑑賞(四)
 九、24・9) 4 万葉集抄(一一) 久松潜一 解釈と鑑賞(四)
 二、24・11) 2 万葉集抄(一二) 久松潜一 解釈と鑑賞(四)
 三、24・12) 3 万葉集抄(一三) 久松潜一 解釈と鑑賞(五)
 三、25・3) 5 万葉集抄(一四) 久松潜一 解釈と鑑賞(五)
 二、25・11) 2 万葉集抄(一五) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 六、26・6) 5 万葉集抄(一六) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 二、26・11) 5 万葉集抄(一七) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 三、27・2) 5 万葉集抄(一八) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 三、27・3) 4 万葉集抄(一九) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 六、27・6) 2 万葉集抄(二〇) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 九、27・9) 4 万葉集抄(二一) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 一〇、27・10) 6 万葉集抄(二二) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 二、27・11) 4 万葉集抄(二三) 久松潜一 解釈と鑑賞(七)
 三、27・12) 3 万葉集抄(二四) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、28・3) 6 万葉集抄(二五) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 四、28・4) 4 万葉集抄(二六) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 六、28・6) 4 万葉集抄(二七) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 八、28・8) 3 万葉集抄(二八) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 一〇、28・10) 4 万葉集抄(二九) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 二、28・11) 4 万葉集抄(三〇) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、28・12) 3 万葉集抄(三一) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、29・2) 3 万葉集抄(三二) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、29・3) 3 万葉集抄(三三) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、29・5) 3 万葉集抄(三四) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 八、29・8) 3 万葉集抄(三五) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 一〇、29・10) 4 万葉集抄(三六) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 二、29・11) 3 万葉集抄(三七) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、29・12) 4 万葉集抄(三八) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、30・2) 2 万葉集抄(三九) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 三、30・3) 万葉集抄(四〇) 久松潜一 解釈と鑑賞(六)
 二、30・11) 万葉集抄(四一) 久松潜一 解釈と鑑賞(三)
 三、31・2) 4 万葉集抄(四二) 久松潜一 解釈と鑑賞(三)
 三、31・3) 4 万葉集抄(四三) 久松潜一 解釈と鑑賞(三)
 三、31・4) 4 万葉集抄(四四) 久松潜一 解釈と鑑賞(三)
 名篇の新しい評釈―熟田津に船乗りせむと
 (万葉集・一)―久松潜一 国文学(二・四、
 32・4) 4
 名篇の新しい評釈―冬ごもり春さりくれば
 (万葉集・二)―久松潜一 国文学(二・七、
 32・7) 4
 名篇の新しい評釈―珠藻かる(万葉集・三)
 ―久松潜一 国文学(二・八、32・8) 4
 名篇の新しい評釈―天さかる夷の長道ゆ(万
 葉集・四)―久松潜一 国文学(二・九、32・
 9) 4
 名篇の新しい評釈―旅にして物恋しきに(万

- 葉集・五) — 久松潜一 国文学(二〇、32・10) 4
- 名篇の新しい評釈—わが船はひらの湖に(万葉集・六) — 久松潜一 国文学(二二、32・11) 4
- 名篇の新しい評釈—天地の分れし時ゆ(万葉集・七) — 久松潜一 国文学(二三、32・12) 4
- 名篇の新しい評釈—みもろの神なび山に(万葉集・八) — 久松潜一 国文学(三三、33・2) 4
- 名篇の新しい評釈—わぎも子が見し頼の浦の(万葉集・九) — 久松潜一 国文学(三三、33・3) 4
- 名篇の新しい評釈—世の中の遊びの道に(万葉集・一〇) — 久松潜一 国文学(三四、33・4) 4
- 名篇の新しい評釈—この世にし楽しくあらば(万葉集・一一) — 久松潜一 国文学(三六、33・6) 4
- 名篇の新しい評釈—白縫筑紫の綿は(万葉集・一二) — 久松潜一 国文学(三八、33・8) 4
- 名篇の新しい評釈—丈夫の弓上ふり起し(万葉集・一三) — 久松潜一 国文学(三九、33・9) 4
- 名篇の新しい評釈—梶繩の新羅の国ゆ(万葉集・一五) — 久松潜一 国文学(三二、33・11) 4
- 名篇の新しい評釈—佐保河の岸のつかさの(万葉集・一六) — 久松潜一 国文学(三三、33・12) 4
- 名篇の新しい評釈—わが形見見つつ惚げせ(万葉集・一七) — 久松潜一 国文学(三四、34・2) 4
- 名篇の新しい評釈—あらたまの年のへぬれば(万葉集・一八) — 久松潜一 国文学(三四、34・3) 4
- 名篇の新しい評釈—夕されば物もひまさる(万葉集・一九) — 久松潜一 国文学(三四、34・4) 4
- 名篇の新しい評釈—世の中の女にしあれば(万葉集・二〇) — 久松潜一 国文学(三四、34・5) 4
- 名篇の新しい評釈—玉の緒を沫緒によりて(万葉集・二二) — 久松潜一 国文学(三四、34・6) 4
- 名篇の新しい評釈—千鳥鳴く佐保の河門の(万葉集・二二) — 久松潜一 国文学(三四、34・7) 4
- 名篇の新しい評釈—月夜には門に出立ち(万葉集・二三) — 久松潜一 国文学(四二、34・9) 4
- 名篇の新しい評釈—朝床に聞けば遙けり(万葉集・二四) — 久松潜一 国文学(四三、34・10) 4
- 名篇の新しい評釈—いはせ野に秋はぎしのぎ(万葉集・二五) — 久松潜一 国文学(四三、34・11) 4
- 名篇の新しい評釈—筑波ねの新桑まよの(万葉集・二六) — 久松潜一 国文学(四四、34・12) 4
- 名篇の新しい評釈—鎌倉のみこしの崎の(万葉集・二七) — 久松潜一 国文学(五一、35・1) 4
- 名篇の新しい評釈—には鳥の葛飾早稲を(万葉集・二八) — 久松潜一 国文学(五一、35・3) 4
- 名篇の新しい評釈—冬ごもり春去りくれば(万葉集・二九) — 久松潜一 国文学(五一、35・5) 4
- 名篇の新しい評釈—近江の海泊り八十あり(万葉集・三〇) — 久松潜一 国文学(五一、35・6) 4
- 名篇の新しい評釈—つぎねふ山背路を(万葉集・三一) — 久松潜一 国文学(五八、35・7) 4
- 名篇の新しい評釈—百しのの三野の王(万葉集・三二) — 久松潜一 国文学(五二〇、35・8) 4
- 名篇の新しい評釈—君がゆく道のながてを

- (万葉集・三三) — 久松潜一 国文学(五・二、35・9) 4
- 名篇の新しい評釈—妹が名にかけたる桜(万葉集・三四) — 久松潜一 国文学(五・三、35・10) 4
- 名篇の新しい評釈—ぬばたまの黒髪ぬれて(万葉集・三五) — 久松潜一 国文学(五・一四、35・12) 4
- 名篇の新しい評釈—商変りしらすとの御法(万葉集・三六) — 久松潜一 国文学(六・一、36・1) 4
- 名篇の新しい評釈—夕附く日さすや河辺に(万葉集・三七) — 久松潜一 国文学(六・三、36・2) 5
- 名篇の新しい評釈—いさなとり海や死にする(万葉集・三八) — 久松潜一 国文学(六・四、36・3) 4
- 名篇の新しい評釈—大君のつかはさなくに(万葉集・三九) — 久松潜一 国文学(六・五、36・4) 4
- 名篇の新しい評釈—志賀の山いたくな伐りそ(万葉集・四〇) — 久松潜一 国文学(六・六、36・5) 4
- 名篇の新しい評釈—奥ゆくや赤ら小船に(万葉集・四一) — 久松潜一 国文学(六・七、36・6) 4
- 名篇の新しい評釈—はしだての熊来酒屋に(万葉集・四二) — 久松潜一 国文学(六・一〇、36・8) 4
- 名篇の新しい評釈—雨降らず日の重なれば(万葉集・四三) — 久松潜一 国文学(六・三、36・10) 4
- 名篇の新しい評釈—田道間守常世にわたり(万葉集・四四) — 久松潜一 国文学(六・三、36・11) 4
- 名篇の新しい評釈—三諸の神の神杉(万葉集・四五) — 久松潜一 国文学(七・一、37・1) 4
- 名篇の新しい評釈—君が行きけ長くなりぬ(万葉集・四六) — 久松潜一 国文学(七・四、37・3) 4
- 名篇の新しい評釈—後れみて恋ひつつあらずは(万葉集・四七) — 久松潜一 国文学(七・五、37・4) 4
- 名篇の新しい評釈—ふる雪はあはになふりそ(万葉集・四八) — 久松潜一 国文学(七・七、37・6) 4
- 名篇の新しい評釈—わが背子を大和へやるそ(万葉集・四九) — 久松潜一 国文学(七・九、37・7) 4
- 名篇の新しい評釈—遊土とわれは聞けるを(万葉集・五〇) — 久松潜一 国文学(七・一〇、37・8) 4
- 名篇の新しい評釈—磐白の浜松が枝を(万葉集・五一) — 久松潜一 国文学(七・二、37・9) 4
- 名篇の新しい評釈—梓弓手に取りもちて(万葉集・五二) — 久松潜一 国文学(七・三、37・10) 4
- 名篇の新しい評釈—大和には群山あれど(万葉集・五三) — 久松潜一 国文学(七・四、37・11) 4
- 名篇の新しい評釈—たまきはる宇智の大野に(万葉集・五四) — 久松潜一 国文学(七・五、37・12) 4
- 名篇の新しい評釈—高山は畝傍雄男しと(万葉集・五五) — 久松潜一 国文学(八・三、38・2) 4
- 名篇の新しい評釈—あかねさす紫野行き(万葉集・五六) — 久松潜一 国文学(八・四、38・3) 4
- 名篇の新しい評釈—み吉野の耳我の嶺に(万葉集・五七) — 久松潜一 国文学(八・五、38・4) 4
- 名篇の新しい評釈—古への人にわれあれや(万葉集・五八) — 久松潜一 国文学(八・六、38・5) 4
- 名篇の新しい評釈—玉拳畝火の山の(万葉集・五九) — 久松潜一 国文学(八・六、38・6) 4
- 名篇の新しい評釈—籠もよみ籠もち(万葉集・

六〇) — 久松潜一 国文学(六二〇、38・8)

4

名篇の新しい評釈 — 年魚市潟潮干にけらし

(万葉集・六一) — 久松潜一 国文学(六二〇、38・9) 4

二、38・9) 4

名篇の新しい評釈 — うつせみの命を惜しみ

(万葉集・六二) — 久松潜一 国文学(六二〇、38・10) 4

三、38・10) 4

名篇の新しい評釈 — 嗚呼見の浦に船乗りすら

む (万葉集・六三) — 久松潜一 国文学(六二四、38・11) 4

(六二四、38・11) 4

名篇の新しい評釈 — 入間路のおほやが原の

(万葉集・六四) — 久松潜一 国文学(六二四、38・12) 4

五、38・12) 4

名篇の新しい評釈 — 海原の道遠みかも (万葉集・六五) — 久松潜一 国文学(六三三、39・2) 4

2) 4

名篇の新しい評釈 — 住く川の過ぎにし人の

(万葉集・六六) — 久松潜一 国文学(六三三、39・4) 4

三、39・4) 4

名篇の新しい評釈 — 浪高しいかに楫取 (万葉集・六七) — 久松潜一 国文学(六三三、39・5) 4

5) 4

名篇の新しい評釈 — 風早の三穂の浦みを (万葉集・六八) — 久松潜一 国文学(六三七、39・6) 4

39・6) 4

名篇の新しい評釈 — 石ばしる垂水の上の (万葉集・六九) — 久松潜一 国文学(六三七、39・7) 4

39・7) 4

名篇の新しい評釈 — かはづ鳴く甘南備河に

(万葉集・七〇) — 久松潜一 国文学(六三三、39・8) 4

(六三三、39・8) 4

名篇の新しい評釈 — 昼は咲き夜は恋ひぬる

(万葉集・七一) — 久松潜一 国文学(六三三、39・9) 4

二、39・9) 4

名篇の新しい評釈 — 今朝のあさけ雁がね聞き

つ (万葉集・七二) — 久松潜一 国文学(六三三、39・10) 4

(六三三、39・10) 4

名篇の新しい評釈 — たぶてにも投げ越しつべ

き (万葉集・七三) — 久松潜一 国文学(六三三、39・11) 4

(六三三、39・11) 4

名篇の新しい評釈 — しながら鳥安房に継ぎたる

(万葉集・七四) — 久松潜一 国文学(六三三、39・12) 4

三、39・12) 4

万葉名歌講話 (第五回) — 「月待者潮毛可奈

比沼」の考を中心に — 浜田坡牛 富士 (三二、23・4、5合併号) 3

(三二、23・4、5合併号) 3

万葉名歌講話 (第六回) — 九番「莫露円隣之

大相云兄爪謁氣」之歌其他 — 浜田佐賀衛 富士 (三三、23・5、6合併号) 8

富士 (三三、23・5、6合併号) 8

万葉名歌講話 (第七回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三六、23・7、8合併号) 5

号) 5

万葉名歌講話 (第八回) — 万葉全歌の新研究

— 万葉全歌の新研究 1、2合併号) 5

1、2合併号) 5

万葉名歌講話 (第九回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三三、四合併号、24・3、4合併号) 6

三、4合併号) 6

万葉名歌講話 (第十回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三三、五、六合併号、24・7) 3

三、5、6合併号、24・7) 3

万葉名歌講話 (第十一回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三七、八、九合併号、24・9) 3

24・9) 3

万葉名歌講話 (第十二回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三二、24・10) 2

富士 (三二、24・10) 2

万葉名歌講話 (第十三回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三二、24・11) 3

富士 (三二、24・11) 3

万葉名歌講話 (第十四回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田佐賀衛 富士 (三三、24・12) 2

富士 (三三、24・12) 2

万葉名歌講話 (第十五回) — 万葉全歌の研究

— 浜田坡牛 富士 (四一、25・1) 2

富士 (四一、25・1) 2

万葉名歌講話 (第十六回) — 万葉全歌の新研究

— 浜田坡牛 富士 (四三、25・3) 5

富士 (四三、25・3) 5

万葉名歌講話 (第十七回) — 高市古人旧都感

傷歌 — 浜田坡牛 富士 (四四、25・4) 3

富士 (四四、25・4) 3

万葉名歌講話 (第十八回) — 川島皇子手向草

之歌 — 浜田坡牛 富士 (四五、25・5) 2

富士 (四五、25・5) 2

万葉名歌講話 (第十九回) — 阿閉皇女勢能山

之歌 — 浜田坡牛 富士 (四六、25・6) 2

富士 (四六、25・6) 2

—

—

—

—

—

—

万葉名歌講話(第二十回)―人麿の吉野の宮の歌(上)―浜田坡牛 富士(四・七、25・7)

5

万葉名歌講話(第二十一回)―人麿の吉野の宮の歌(下)―浜田坡牛 富士(四・八、25・8)

5

万葉名歌講話(第二十二回)―從駕の大宮人を懷ふ人麿の歌―浜田坡牛 富士(四・九、25・9)

3

万葉名歌講話(第二十三回)―当麻真人麻呂の妻の歌―浜田坡牛 富士(四・一〇、25・一〇)

2

万葉名歌講話(第一講追補再録)―万葉集の名称と巻数―浜田坡牛 富士(四・一一三、25・一一―一二)

3

万葉名歌講話(第二十四回)石上麻呂の從駕の歌―浜田坡牛 富士(五・一、26・1)

2

万葉名歌講話(第二十五回)―輕皇子安騎野御狹の人麿の歌―浜田坡牛 富士(五・二、26・2)

6

万葉名歌講話(第二十六回)―藤原宮之役民作歌―浜田坡牛 富士(五・三、26・3)

6

万葉名歌講話(第二十七回)―志貴皇子の明日香風の歌―浜田坡牛 富士(五・四、26・4)

1

万葉名歌講話(第二十八回)―藤原の宮の御井の歌―浜田坡牛 富士(五・五、26・5)

4

万葉名歌講話(第二十九回)―巨勢山の列棹と亦打山の歌―浜田坡牛 富士(五・六、26・6)

3

万葉名歌講話(第三十回)―歌人も俳人も研究家もお読み下さい―浜田坡牛 富士(五・七、26・7)

3

万葉名歌講話(第三十一回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・八、26・8)

3

万葉名歌講話(第三十二回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・九、26・9)

4

万葉名歌講話(第三十三回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一〇、26・一〇)

4

万葉名歌講話(第三十四回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一一、26・一一)

3

万葉名歌講話(第三十五回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一二、26・一二)

3

万葉名歌講話(第三十六回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一三、26・一三)

2

万葉名歌講話(第三十七回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一四、27・一)

4

万葉名歌講話(第三十八回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一五、27・3)

4

万葉名歌講話(第三十九回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一六、27・4)

3

万葉名歌講話(第四十回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一七、27・5)

5

万葉名歌講話(第四十一回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一八、27・6)

3

万葉名歌講話(第四十二回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・一九、27・7)

4

万葉名歌講話(第四十三回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・二〇、27・8)

3

万葉名歌講話(第四十四回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・二一、27・9)

3

万葉名歌講話(第四十五回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・二二、27・一〇)

4

万葉名歌講話(第四十六回)―歌人・俳人・研究家のために―浜田坡牛 富士(五・二三、27・一一)

4

- 万葉名歌講話(第四十七回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(六・三、
 27・12) 3
- 万葉名歌講話(第四十八回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・一、
 28・1) 3
- 万葉名歌講話(第四十九回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・二、
 28・2) 3
- 万葉名歌講話(第五十回)―歌人・俳人・研
 究家のために―浜田坡牛 富士(七・三、
 28・3) 3
- 万葉名歌講話(第五十一回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・四、
 28・4) 3
- 万葉名歌講話(第五十二回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・五、
 28・5) 3
- 万葉名歌講話(第五十三回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・六、
 28・6) 6
- 万葉名歌講話(第五十四回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・七、
 28・7) 3
- 万葉名歌講話(第五十五回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・八、
 28・8) 3
- 万葉名歌講話(第五十六回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・九、
 28・9) 5
- 万葉名歌講話(第五十七回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・一〇、
 28・10) 4
- 万葉名歌講話(第五十八回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・二、
 28・11) 4
- 万葉名歌講話(第五十九回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(七・三、
 28・12) 4
- 万葉名歌講話(第六十回)―歌人・俳人・研
 究家のために―浜田坡牛 富士(八・一、29・
 1) 4
- 万葉名歌講話(第六十一回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・二、
 29・2) 6
- 万葉名歌講話(第六十二回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・三、
 29・3) 7
- 万葉名歌講話(第六十三回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・四、
 29・4) 8
- 万葉名歌講話(第六十四回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・五、
 29・5) 4
- 万葉名歌講話(第六十五回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・六、
 29・6) 5
- 万葉名歌講話(第六十六回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・七、
 29・7) 7
- 万葉名歌講話(第六十七回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・八、
 29・8) 3
- 万葉名歌講話(第六十八回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・九、
 29・9) 3
- 万葉名歌講話(第六十九回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・一〇、
 29・10) 2
- 万葉名歌講話(第七十回)―歌人・俳人・研
 究家のために―浜田坡牛 富士(八・一一、
 29・11) 5
- 万葉名歌講話(第七十一回)―歌人・俳人・
 研究家のために―浜田坡牛 富士(八・一二、
 29・12) 2
- 万葉名歌講話(第七十二回)―古今の研究に
 百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・一、
 30・1) 4
- 万葉名歌講話(第七十三回)―古今の研究に
 百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・三、
 30・2) 3

- 万葉名歌講話(第七十四回)―古今の研究に
百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・三
30・3) 3
- 万葉名歌講話(第七十五回)―古今の研究に
百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・五
30・5) 4
- 万葉名歌講話(第七十六回)―古今の研究に
百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・五
30・5) 3
- 万葉名歌講話(第七十七回)―古今の研究に
百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・六
30・6) 5
- 万葉名歌講話(第七十八回)―古今の研究に
百歩を進めたい―浜田坡牛 富士(九・七
30・7) 5
- 万葉名歌講話(第七十九回)―卷第三の二三
九より二四四まで―浜田坡牛 富士(九・
九・30・9) 6
- 万葉名歌講話(第八十回)―卷第三の二四五
より二五〇まで―浜田坡牛 富士(九・〇、
30・10) 7
- 万葉名歌講話(第八十一回)―卷三の二五一
より二五四まで―浜田坡牛 富士(九・二、
30・11) 3
- 万葉名歌講話(第八十二回)―卷三の二五五
から二五六まで―浜田佐賀衛 富士(九・
三・30・12) 2
- 万葉名歌講話(第八十三回)―卷三の二五七
から二六〇まで―浜田佐賀衛 富士(〇・
一、31・1) 5
- 万葉名歌講話(第八十四回)―卷三の二六一
から二六四まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・三、31・2) 4
- 万葉名歌講話(第八十五回)―卷三の二六五
から二六九まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・三、31・3) 5
- 万葉名歌講話(第八十六回)―卷三の二七〇
から二七七まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・四、31・4) 5
- 万葉名歌講話(第八十七回)―卷三の二七八
から二八四まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・五、31・5) 5
- 万葉名歌講話(第八十八回)―卷三の二八五
から二九一まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・六、31・6) 5
- 万葉名歌講話(第八十九回)―卷三の二九二
から二九七まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・七、31・7) 5
- 万葉名歌講話(第九十回)―卷三の二九八か
ら三〇一まで―浜田佐賀衛 富士(〇・八、
31・8) 4
- 万葉名歌講話(第九十一回)―卷三の三〇一
から三〇五まで―浜田佐賀衛 富士
(〇・九、31・9) 4
- 万葉名歌講話(第九十二回)―卷三の三〇六
から三〇九まで―浜田坡牛 富士(〇・
一〇、31・10) 2
- 万葉名歌講話(第九十三回)―卷三の三一〇
から三一三まで―浜田坡牛 富士(〇・
二、31・11) 3
- 万葉名歌講話(第九十四回)―卷三の三一
一から三一三まで―浜田坡牛 富士(〇・
三、31・12) 2
- 万葉名歌講話(第九十五回)―卷三の三一四
から三一六まで―浜田坡牛 富士(一・一、
32・1) 3
- 万葉名歌講話(第九十六回)―卷三の三一七
から三一八まで―浜田佐賀衛 富士
(一・二、32・2) 3
- 万葉名歌講話(第九十七回)―卷三の三一八
から三二一まで―浜田坡牛 富士(一・三、
32・3) 5
- 万葉名歌講話(第九十八回)―卷三の三二二
から三二五まで―浜田坡牛 富士(一・四、
32・4) 3
- 万葉名歌講話(第九十九回)―卷三の三二四
から三二五まで―浜田坡牛 富士(一・五、
32・5) 3
- 万葉名歌講話(第百回)―卷三の三二六から
三二八まで―浜田坡牛 富士(一・六、32・
6) 3

- 万葉名歌講話(第百一回)―卷三の三二九か
ら三三二まで―浜田坡牛 富士(二・七、
32・7) 3
- 万葉名歌講話(第百二回)―卷三の三三三か
ら三三五まで―浜田坡牛 富士(二・八、
32・8) 3
- 万葉名歌講話(第百三回)―卷三の三三六か
ら三三七まで―浜田坡牛 富士(二・九、
32・9) 3
- 万葉名歌講話(第百四回)―卷三の三三八か
ら三四一まで―浜田坡牛 富士(二・一〇、
32・10) 3
- 万葉名歌講話(第百五回)―卷三の三四二か
ら三四六まで―浜田坡牛 富士(二・一一、
32・11) 3
- 万葉名歌講話(第百六回)―卷三の三四七の
一首―浜田坡牛 富士(二・一二、32・12) 2
- 万葉名歌講話(第百七回)―卷三の三四八か
ら三五二まで―浜田坡牛 富士(三・一、33・
1) 3
- 万葉名歌講話(第百八回)―卷三の三五三か
ら三五六まで―浜田坡牛 富士(三・二、
33・2) 3
- 万葉名歌講話(第百九回)―卷三の三五七か
ら三六〇まで―浜田坡牛 富士(三・三、
33・3) 3
- 万葉名歌講話(第百十回)―卷三の三六一か
ら三六四まで―浜田坡牛 富士(三・四、
33・4) 3
- 万葉名歌講話(第百十一回)―卷三の三六五
から三六七まで―浜田坡牛 富士(三・五、
33・5) 3
- 万葉名歌講話(第百十二回)―卷三の三六八
から三七〇まで―浜田坡牛 富士(三・六、
33・6) 3
- 万葉名歌講話(第百十三回)―卷三の三七一
から三七三まで―浜田坡牛 富士(三・七、
33・7) 3
- 万葉名歌講話(第百十四回)―卷三の三七四
から三七七まで―浜田坡牛 富士(三・八、
33・8) 3
- 万葉名歌講話(第百十五回)―卷三の三七八か
ら三八〇まで―浜田坡牛 富士(三・九、
33・9) 3
- 万葉名歌講話(第百十八回)―卷三の三八一
から三八三まで―浜田坡牛 富士(三・
一〇、33・10) 3
- 万葉名歌講話(第百十七回)―卷三の三八四
から三八七まで―浜田坡牛 富士(三・
一一、33・11) 3
- 万葉名歌講話(第百十八回)―卷三の三八八
から三八九まで―浜田坡牛 富士(三・
一二、33・12) 3
- 万葉名歌講話(第百十九回)―卷三の三九〇
から三九二まで―浜田坡牛 富士(三・
一三、34・1) 3
- 万葉名歌講話(第百二十四回)―卷三の三九四
から三九七まで―浜田坡牛 富士(三・
一四、34・2) 3
- 万葉名歌講話(第百二十一回)―卷三の三九
八から四〇〇まで―浜田坡牛 富士(三・
一五、34・3) 3
- 万葉名歌講話(第百二十二回)―卷三の四〇
一から四〇三まで―浜田坡牛 富士
(三・一六、34・4) 3
- 万葉名歌講話(第百二十三回)―卷三の四〇
四から四〇六まで―浜田坡牛 富士
(三・一七、34・5) 2
- 万葉名歌講話(第百二十四回)―卷三の四〇
七から四一〇まで―浜田坡牛 富士
(三・一八、34・6) 3
- 万葉名歌講話(第百二十五回)―卷三の四一
一から四一五まで―浜田坡牛 富士
(三・一九、34・7) 3
- 万葉名歌講話(第百二十六回)―卷三の四一
六から四一九まで―浜田坡牛 富士
(三・二〇、34・8) 3
- 万葉名歌講話(第百二十七回)―卷三の四二
〇から四二二まで―浜田坡牛 富士
(三・二一、34・9) 3
- 万葉名歌講話(第百二十八回)―卷三の四二

- 三から四二五まで― 浜田坡牛 富士
(三三〇、34・10) 3
- 万葉名歌講話(第百二十九回)― 卷三の四二
六から四三〇まで― 浜田坡牛 富士
(三三一、34・11) 3
- 万葉名歌講話(第百三十回)― 卷三の四三一
から四三三まで― 浜田坡牛 富士 (三三
三、34・12) 3
- 万葉名歌講話(第百三十一回)― 卷三巻頭四
三四から四三七まで― 浜田坡牛 富士
(三三一、35・1) 3
- 万葉名歌講話(第百三十二回)― 卷三の四三
八から四四二まで― 浜田坡牛 富士
(三三二、35・2) 3
- 万葉名歌講話(第百三十三回)― 卷三の四四
三から四四五まで― 浜田坡牛 富士
(三三三、35・3) 3
- 万葉名歌講話(第百三十四回)― 卷三の四四
六から四五三まで― 浜田坡牛 富士
(三三四、35・4) 3
- 万葉名歌講話(第百三十五回)― 卷三の四五
四から四五九まで― 浜田坡牛 富士
(三四一、35・5) 3
- 万葉名歌講話(第百三十六回)― 卷三の四六
〇から四六一まで― 浜田坡牛 富士
(三四六、35・6) 3
- 万葉名歌講話(第百三十七回)― 卷三の四六
- 二から四六六まで― 浜田坡牛 富士
(四三七、35・7) 3
- 万葉名歌講話(第百三十八回)― 卷三の四六
七から四七四まで― 浜田坡牛 富士
(四三八、35・8) 3
- 万葉名歌講話(第百三十九回)― 卷三の四七
五から四七七まで― 浜田坡牛 富士
(四九六、35・9) 3
- 万葉名歌講話(第百四十回)― 卷三の四七八
から四八〇まで― 浜田坡牛 富士 (四
九〇、35・10) 3
- 万葉名歌講話(第百四十一回)― 卷三の四八
一から四八三まで― 浜田坡牛 富士
(四九二、35・11) 3
- 万葉名歌講話(第百四十二回)― 卷三の四八
四から四八七まで― 浜田坡牛 富士
(四九三、35・12) 3
- 万葉名歌講話(第百四十三回)― 卷四の四八
八から四九五まで― 浜田坡牛 富士
(五〇一、36・1) 3
- 万葉名歌講話(第百四十四回)― 卷四の四九
六から五〇〇まで― 浜田坡牛 富士
(五〇三、36・2) 2
- 万葉名歌講話(第百四十五回)― 卷四の五〇
一から五〇八まで― 浜田坡牛 富士
(五〇三、36・3) 3
- 万葉名歌講話(第百四十六回)― 卷四の五〇
- 九から五一〇まで― 浜田坡牛 富士
(五〇四、36・4) 3
- 万葉名歌講話(第百四十七回)― 卷四の五一
一から五一七まで― 浜田坡牛 富士
(五〇五、36・5) 3
- 万葉名歌講話(第百四十八回)― 卷四の五一
八から五二三まで― 浜田坡牛 富士
(五〇六、36・6) 3
- 万葉名歌講話(第百四十九回)― 卷四の五二
四から五二九まで― 浜田坡牛 富士
(五〇七、36・7) 3
- 万葉名歌講話(第百五十回)― 卷四の五三〇
から五三三まで― 浜田坡牛 富士(五〇
八、36・8) 3
- 万葉名歌講話(第百五十一回)― 卷四の五三
四から五三六まで― 浜田坡牛 富士
(五〇九、36・9) 3
- 万葉名歌講話(第百五十二回)― 卷四の五三
七から五四二まで― 浜田坡牛 富士
(五一〇、36・10) 3
- 万葉名歌講話(第百五十三回)― 卷四の五四
三から五四五まで― 浜田坡牛 富士
(五一二、36・11) 3
- 万葉名歌講話(第百五十四回)― 卷四の五四
六から五四八まで― 浜田坡牛 富士
(五一三、36・12) 2
- 万葉名歌講話(第百五十五回)― 卷四の五四

- 九から五五四まで―浜田坡牛 富士
(一六一、37・1) 3
- 万葉名歌講話(第百五十六回)―卷四の五五
五から五五八まで―浜田坡牛 富士
(一六一、37・2) 2
- 万葉名歌講話(第百六十七回)―卷四の六一
九から六二一まで―浜田坡牛 富士
(一七一、38・1) 3
- 万葉名歌講話(第百六十八回)―卷四の六二
二から六二四まで―浜田坡牛 富士
(一七一、38・2) 3
- 万葉名歌講話(第百六十九回)―卷四の六二
五から六二八まで―浜田坡牛 富士
(一七三、38・3) 3
- 万葉名歌講話(第百七十回)―卷四の六二九
から六三八まで―浜田坡牛 富士(一七四、
38・4) 3
- 万葉名歌講話(第百七十一回)―卷四の六三
五から六四二まで―浜田坡牛 富士
(一七五、38・5) 3
- 万葉名歌講話(第百七十二回)―卷四の六四
三から六四九まで―浜田坡牛 富士
(一七六、38・6) 3
- 万葉名歌講話(第百七十三回)―卷四の六五
〇から六五五まで―浜田坡牛 富士
(一七七、38・7) 3
- 万葉名歌講話(第百七十四回)―卷四の六五
- 六から六六二まで―浜田坡牛 富士
(一七八、38・8) 3
- 万葉名歌講話(第百七十五回)―卷四の六六
三から六六八まで―浜田坡牛 富士
(一七九、38・9) 3
- 万葉名歌講話(第百七十六回)―卷四の六六
九から六七四まで―浜田坡牛 富士
(一七〇、38・10) 3
- 万葉名歌講話(第百七十七回)―卷四の六七
五から六八一まで―浜田坡牛 富士
(一七二、38・11) 3
- 万葉名歌講話(第百七十八回)―卷四の六八
二から六八八まで―浜田坡牛 富士
(一七三、38・12) 5
- 万葉名歌講話(第百七十九回)―卷四の六八
九から六九五まで―浜田坡牛 富士
(一八一、39・1) 3
- 万葉名歌講話(第百八十回)―卷四の六九六
から七〇一まで―浜田坡牛 富士(一八三、
39・2) 3
- 万葉名歌講話(第百八十一回)―卷四の七〇
二から七〇八まで―浜田坡牛 富士
(一八三、39・3) 3
- 万葉名歌講話(第百八十二回)―卷四の七〇
九から七一五まで―浜田坡牛 富士
(一八四、39・4) 3
- 万葉名歌講話(第百八十三回)―卷四の七一
- 六から七二二まで―浜田坡牛 富士
(一八五、39・5) 3
- 万葉名歌講話(第百八十四回)―卷四の七二
三から七二六まで―浜田坡牛 富士
(一八六、39・6) 3
- 万葉名歌講話(第百八十五回)―卷四の七二
七から七三三まで―浜田坡牛 富士
(一八七、39・7) 3
- 万葉名歌講話(第百八十六回)―卷四の七三
四から七四一まで―浜田坡牛 富士
(一八八、39・8) 3
- 万葉名歌講話(第百八十七回)―卷四の七四
二から七四九まで―浜田坡牛 富士
(一八九、39・9) 3
- 万葉名歌講話(第百八十八回)―卷四の七五
〇から七五六まで―浜田坡牛 富士
(一九〇、39・10) 3
- 万葉名歌講話(第百八十九回)―卷四の七五
八から七六四まで―浜田坡牛 富士
(一九二、39・11) 3
- 万葉名歌講話(第百九十回)―卷四の七六五
から七七一まで―浜田坡牛 富士(一九
三、39・12) 3